公益法人用

（様式６）

経営改善目標の達成に向けた取組状況

１　法人の概要（令和７年７月１日現在）

法人名	（公財）神奈川文学振興会				
設立年月日	昭和57年４月１日 (名称変更：平成23年４月１日)		代表者名	理事長　荻野 安奈	
所在地	横浜市中区山手町110		電話番号	045-622-6666	
基本財産等	110,000,000　円	県出資額	53,000,000　円	県出資率	48.2　%

２　法人運営における現状の課題（法人）

○当財団は指定管理者として神奈川近代文学館の運営に当たっている。令和６年度は、特別展を２回、企画展を２回開催した。また、冬季には、常設展(シリーズ展)を１回開催した。利用料金収入、事業収入とも好調であったが、増収分は施設の老朽化による修繕工事、諸物価高騰の影響による経費の増加に充てた。今後も同様の状況が続くと予想されることから、従来どおりに事業を行うためには、一層の経費節減と収益増のための方策が必要となる。
○利用料金収入のうち、会議室利用料は、令和４年度までの県の要請による会議室新規予約受付停止等により減少した会議室利用が回復せず、コロナ禍前平成30年度の52%となっている。利用促進のため、会議室内へのWi-Fi機器設置を継続し、さらに令和７年７月よりホール内にも増設することとした。今後も設備備品の充実を図り利便性を高めるとともに、広報に力を入れていきたい。
○荷物用エレベータ更新工事の騒音対策として令和６年12月から年末年始を展示室休室とした。会議室は、火～土のホールを貸出停止とした。他に空調工事に対応するため１月に小会議室、中会議室、和室の貸出を停止した。

３　法人の県主導第三セクターとしての検証（所管課）

（１）公益性について

特別資料のデータをインターネット上で閲覧可能とし、ホームページでの講演会音声の公開、SNSでの情報発信を拡張、また、子供向けの映画会、ワークショップ等のイベント開催、小・中・高等学校へ巡回パネル文学展を提供する等幅広い年齢層への文学へ触れる機会の提供促進を図るなど公益性の高い事業を実施している。

（２）県行政との関連性について

「かながわ文化芸術振興計画」にて掲げている「県民の文化芸術活動の充実」、「文化芸術の振興を図るための環境整備」に伴い、展覧会の開催、普及活動の実施、ホームページやSNSの活用による情報提供、普及啓発の実施や、収蔵資料等のデジタル化、データベース化の推進等実施している。

（３）民間代替性について

文学関係者やその遺族などからの収蔵資料の寄託や寄贈、特別展の開催、また館内収蔵資料の利用や他の文学資料収蔵施設（文学館、大学等）との提携・調整などは、文学振興会が設立以来40年近くにわたって蓄積してきた、高い専門性に裏打ちされた資料整理・保存に関する経験・ノウハウへの信頼から成立しているもので、容易に獲得・継承できるようなものではなく、民間代替性は低い。

４　経営改善目標の達成に向けた取組実績等（法人）

＊　項目ごとに、下段の（　）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
1	利用者数（展示・閲覧・会議室利用） （下段は展示関連動画等閲覧数）	人	29,787 (48,300)	57,983 (48,400)	62,557 (60,400)	53,824 (60,600)	(60,800)	A
		件	7,066 (2,600)	5,295 (2,700)	2,912 (2,800)	6,723 (2,900)	(3,000)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
展覧会の総観覧者数は36,387人となり、40,000人を超えた４年度、５年度に届かなかったが、来館者を増やす試みとして、５年度につづきアニメ・コミックとのコラボを行った。事前予約制をとるなど混雑対策を行いつつ多くの若年層を呼び込むことに成功した。また、閲覧室利者数については、５年度同様コロナ禍前の平成30年度を上回った。会議室利用者数は工事による貸出停止の影響もあり、令和元年度の53.4%に留まった。展示関連動画等閲覧数では、大きく目標を上回ることができた。	引き続き、様々な取組により、来館利用者数の維持に努めたい。また、展示関連動画等の告知に努め、閲覧数を伸ばしていきたい。会議室利用者数については、設備備品の充実を図り、利便性を高めるとともに、広報努めることで、利用増につなげたい。
備考	

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
2	若年層向け行事参加者数 (下段はオンラインによる視聴数)	人	375 (800)	752 (850)	1,079 (900)	832 (950)	(1,000)	B
		件	552 (170)	212 (190)	56 (210)	97 (230)	(250)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
高等学校文化連盟図書専門部会との共催行事に加え、夏の古田足日展に関連し、お話し会やワークショップ等を企画、例年開催している映画会も開催したが、猛暑の影響もあり目標数に届かなかった。紙芝居のオンライン配信は、新たなコンテンツ追加が困難なため、今後の視聴数に課題が残る。	新たな子ども向けデジタルコンテンツ等、対面のイベント以外にも事業の可能性を探りたい。

備考
３年度に公開した「佐藤さとる展―『コロボックル物語』とともに―」展覧会ダイジェストは、６年度中に303件の視聴があった。

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
3	パネル巡回文学展の実施校数 (下段は内、データ版によるパネル展利用数)	人	28 (16)	30 (16)	28 (16)	31 (16)	(16)	A
		件	10 (7)	11 (7)	5 (7)	3 (7)	(7)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
県内を中心に中・高等学校の図書室等へのパネル文学展の巡回を実施した。データ版では実施校が目標に達しなかった。実際にパネルを展示する活用シーンが増え、輸送費がかかっても受取後にすぐに使用できる実物が選択される傾向が強くなっていると考えられる。	引き続き、学校に向けてのパネル文学展広報の充実を図り、利用数の維持に努めるほか、公共図書館等にも利用を呼び掛けたい。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
4	HPアクセス数	件	192,549 (127,500)	282,258 (128,000)	343,391 (172,000)	365,156 (172,500)	(173,000)	A

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
HP、SNS等での発信に加え、引き続き、新たなコンテンツ公開も継続している。安部公房展では特設サイトを作成し、展覧会の部門解説、出品資料画像、イベント情報などを掲載したほか、会期中に内覧会スピーチや記念対談のダイジェスト動画を公開するなど順次更新を行った。アクセス数は年度末までで39,764件であった。	今後も新たにコンテンツを公開し、HP、SNS等での発信に加え、動画コンテンツ、資料アーカイブ等の充実も図っていきたい。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
5	「神奈川近代文学館友の会」の会員数 (下段はメールマガジン登録者数)	人	848 (850)	1,033 (900)	990 (950)	1,034 (1,000)	(1,000)	A
		人	1,728 (1,725)	1,865 (1,775)	1,989 (1,825)	2,102 (1,875)	(1,925)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
展示観覧者数の増加にともない友の会会員数も４年度からは回復し、６年度も目標の会員数に達することができた。今後は、この目標を維持したい。メールマガジン登録者数も目標を達成することができた。	引き続き、友の会の特典をアピールし、会員数の維持、新規獲得に努めたい。また、メールマガジンについては、公式noteでメールマガジンの内容と重なる機関紙記事抜粋の公開を開始したことにより、メールマガジンに登録せず、公式noteで閲覧する方も増えたと考えられる。次期では新たな枠組に対応した運営を検討し、目標指標の再検討も行いたい。

備考

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
1	利用料金収入	千円	7,654 (8,059)	14,674 (8,259)	15,463 (8,559)	14,638 (8,859)	(9,259)	A

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
各展覧会の好調により観覧料収入は４年度、５年度に続きコロナ禍前の好調な水準を維持することができた。会議室の利用件数は回復せず、会議室使用料収入は平成30年度の約52%となっている。	引き続き利用料金収入の回復基調維持に努めたい。また、会議室使用料収入については、利用促進のため、会議室内へのWi-Fi機器を継続し、さらに令和７年７月よりホール内にも増設することとした。今後も設備備品の充実を図り利便性を高めるとともに、広報に力を入れていきたい。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
2	事業収入	千円	4,327 (5,530)	6,351 (5,830)	7,204 (6,130)	12,386 (6,430)	(6,630)	A

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
令和５年度後半に引き続き、開館40周年を記念した連続イベントを実施した。秋の特別展「安部公房展」について、図録を出版社からの刊行としたため、頒価が上がり、刊行物販売収入が増加した。	

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
3	年間電力使用量	kwh	707,648 (781,300)	682,453 (781,100)	670,917 (780,900)	737,555 (780,700)	(780,500)	A

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
資料保存の観点から適切な温湿度を維持しつつ、節電に努めた。	今後も節電対策を進めたい。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	６年度自己評価
4	年間電力料金	千円	17,902 (19,350)	23,143 (19,300)	19,120 (19,250)	19,053 (19,200)	(19,150)	B

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
最大電力使用量に留意することで料金の抑制に努め、年間電力使用量の削減目標を達成した。	今後も照明のLED化等の節電対策を進めるとともに、空調機等の運転設定により電力料金の節減を図りたい。

備考

５　財務状況（法人）

（単位：千円、％）

区分			4年度	5年度	6年度	増減率（前年度比）	備考
貸借対照表	資産		454,090	460,866	455,005	△ 1.3	
		流動資産	69,135	64,892	45,716	△ 29.6	現金預金の減
		固定資産	384,955	395,974	409,289	3.4	
	負債		281,946	286,896	283,820	△ 1.1	
		流動負債	64,048	59,744	39,679	△ 33.6	未払金の減
		固定負債	217,899	227,152	244,141	7.5	
	正味財産		172,143	173,970	171,185	△ 1.6	
		指定正味財産	78,000	78,000	78,000	0.0	
		一般正味財産	94,143	95,970	93,185	△ 2.9	

区分			4年度	5年度	6年度	増減率（前年度比）	備考
正味財産増減計算書	一般正味財産	経常収益	448,741	454,465	450,679	△ 0.8	
		経常費用	447,436	452,281	452,652	0.1	
		事業費	444,099	449,123	449,659	0.1	
		うち人件費	243,124	243,604	245,288	0.7	
		管理費	3,337	3,158	2,993	△ 5.2	
		うち人件費	105	127	136	7.4	
		評価損益等計	△358	△358	△358		
		評価損益等調整前当期経常増減額	1,306	2,185	△1,973		
		当期経常増減額	947	1,827	△2,331		
		経常外収益	0	0	0	0.0	
		経常外費用	0	0	0	0.0	
		当期経常外増減額	0	0	0		
		当期一般正味財産増減額	947	1,827	△2,785		
	指定正味	当期指定正味財産増減額	0	0	0		
	正味財産期末残高		172,143	173,970	171,185	△ 1.6	

（単位：千円、％）

区分		4年度	5年度	6年度	増減率（前年度比）	備考
県の財政的支援※	補助金					なし
	交付金					なし
	負担金					なし
	貸付金					なし
	利子補給					なし
	合計					
	県の財政的支援の割合（合計/経常収益）					

※第三セクター等の指導、調整等に関する要綱に基づく支援区分

（単位：千円、％）

区分			4年度	5年度	6年度	増減率（前年度比）	備考
参考	①	委託料（指定管理料含む）	410,043	413,887	410,043	△ 0.9	
		合計（県の財政的支援＋委託料）	410,043	413,887	410,043	△ 0.9	
		県の財政的関与の割合（合計（県の財政的支援＋委託料）/経常収益）	91.4	91.1	91.0	△ 0.1	
	②	債務保証（残高）					なし
		損失補償（残高）					なし

（単位：％）

指標	計算式	4年度	5年度	6年度	増減率（前年度比）	備考
正味財産比率	正味財産/（負債＋正味財産）	37.9	37.7	37.6	△ 0.3	
流動比率	流動資産/流動負債	107.9	108.6	115.2	6.1	
人件費比率	人件費/経常費用	54.4	53.9	54.2	0.6	
管理費比率	管理費/経常費用	0.7	0.7	0.7	△ 5.3	

６　取組実績等についての総括（法人）

○春の特別展「帰って来た橋本治展」、秋の特別展「安部公房展――21世紀文学の基軸」の２回の特別展を行った。また、年度末からは特別展「大岡信展　言葉を生きる、言葉を生かす」を開催した(会期は５月18日まで)。「橋本治展」は、当館としては初めての戦後生まれの作家の展示となった。主な読者層が現役世代で健在であったことなどもあり観覧者数は11,033人となった。「安部公房展」では幅広い年齢層の来館者があり、観覧者数は11,319人となった。特に、リアルタイムの読者であった50～60代の現役世代と、新しい読者層である10～30代の若年層が目立った。企画展「没後15年 庄野潤三展」、企画展「没後10年 古田足日のぼうけん」は、「橋本治展」とともに、収蔵資料を活用した展示となった。常設展「文学の森へ　神奈川と作家たち」第２部ではアニメ・コミックとのコラボを行った。事前予約制をとるなど混雑対策を行いつつ多くの若年層を呼び込むことに成功した。今後も利用者数の更なる増加に努めたい。
○展示企画に連動した講演会等の行事、児童向け行事を含む文字・活字文化振興事業などのイベントを実施した。開館40周年を記念して５年度から引き続き連続講演会を実施したほか、初の落語会を開催した。高等学校文化連盟図書専門部との協力事業も活発に行い、文字・活字文化振興の一つであるパネル文学展巡回事業では引き続きデータ版による提供も行った。今後も、中・高・大学などの教育機関、類似施設、出版社、企業団体との連携を図り、若年層を中心にあらゆる世代へ周知を行い、利用者数の更なる増加と知名度の向上に努めたい。
○県内小・中・高等学校への巡回パネル文学展については、パネル文学展の提供数を維持することができた。アニメ・コミックとのコラボを行い多くの若年層が観覧した冬の常設展「文学の森へ　神奈川と作家たち」第３部では、ワークシートを提供することで、展示をじっくり観てもらうことができた。引き続き、高等学校文化連盟図書専門部会や小・中・高校との連携を図り、若年層のリピーターを増やしていきたい。
○外部組織と提携した講演会や朗読会、文芸映画会などを展覧会と連動させて共催し、展示動員を図りつつ、生涯学習支援の活動にも力を注ぎたい。

７　取組実績等についての総括（所管課）

○令和５年度に引き続き、若年層に人気のあるアニメ・コミックとのコラボ企画を実施したが、事前予約制をとり混雑対策を行う等、前年度の状況、問題点等を踏まえた上で、多くの来館者を呼び込むことに成功した点は高く評価できる。
○また、令和６年度は各展覧会が好調であり、観覧者数は増加がみられたが、会議室等の利用率は減少しており、それに伴い利用料金収入も目標値を下回ったため、今後利用者数を増やすためさらなる取組が必要となる。今後も集客を見込める展覧会の実施、Wi-Fi機器の増設や広報の見直しが課題と考えられる。
○展示関連動画等閲覧数、HPアクセス数等デジタル化の取組は利用者数が増加しており、目標値を上回っているため、今後さらなるWebを活用した取組の展開も期待される。
○神奈川近代文学館友の会、メールマガジン登録者数はいずれも増加しており、目標値も上回っているため、引き続き友の会の特典のアピール、新規会員獲得のための取組等継続してほしい。

８　第三セクター等改革推進会議の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
A	概ね着実に取組が進められている。